

## 令和4年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第60回）の開催にあたって



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
中部圏支部長 南部 重一

令和4年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第60回）が一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会の担当において、静岡県沼津市の静岡県総合コンベンション施設プラサヴェルデで開催されるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響により様々な学会の中止や延期が相次ぎました。現在はWebを活用した新たな形式で学会が開催されていますが、ようやく感染状況も減少傾向にあり、もとの対面方式の学会へと戻りつつあります。

本学会は「Go to the NEXT ONE！ ～ふじのくにに集い 今と未来を考える～」をテーマに令和4年10月8日（土）、9日（日）の2日間開催されます。宮島喜文 日臨技代表理事会長から「人口減少社会の到来と臨床検査技師」の基調講演、日臨技企画として丸田秀夫 日臨技代表理事副会長から「タスク・シフト/シェアにおいて臨床検査技師の果たす役割について」の講演、静岡県立がんセンター感染症内科部長の倉井華子先生の特別講演、浜松医科大学医学部臨床検査医学教授の前川真人先生の教育講演を頂く予定です。その他にも、支部シンポジウム、部門別企画、一般演題、ランチョンセミナー、機器試薬展示と盛りだくさんの学会です。

さて、医療を取り巻く環境は、2025年には、団塊の世代が全て75歳以上となり、少子・高齢化が進み、2040年には高齢化率がピークに達します。医療需要が増大するため、将来にわたり持続可能な効率的で質の高い医療提供体制の構築が必要とされ、地域医療構想が策定されています。このような変化に耐えうる臨床検査の在り方が必至で、今学会のシンポジウムでは様々な施設のリーダーに未来の職場・臨床検査技師像を語っていただく「夢を語ろう～NEXT ONE “次の” 検査室に向けて～」が企画されています。臨床検査の現場にロボットや人工知能（AI）を備えた検査機器の導入が控える中、「職域の拡大」「業務の効率化」「品質保証」「人材育成」と、我々の“次の”行動指針について一緒に考える機会を作っていただきました。皆さんと共に考えましょう。

是非、本学会に多数の会員が集い、有意義な学会であることを心よりお祈りいたします。

最後に、学会を企画・準備にあたりご尽力いただいた須田達也学会長をはじめ静岡県臨床衛生検査技師会の学会実行委員ならびに実務委員の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症が1日でも早く終息し、明るい社会へと戻ることを切に願っております。